



紫のいんじや聞かなひ!

成人向
同人誌

これまでのあらすじ～超省略。



ある日、チルノがおうちにやってきた！
Hしてみたら溶けちゃった。どうしよう？

そこへババアーンと紫登場。
「タダ動きすればチルノを助けてあげるわあ」



博麗神社へ飛ばされる主人公。
「あなたの名前は今日から名無し！
ウチに居候する代わりにタダ動きよ。」と霊夢。



バイトしに白玉楼へ、妖夢と会う。
「悪霊に取り付かれたー！」ってことで
大怪我しながら退治。するとてゐ登場。

「治療してあげるから永遠亭においでよ」と案内される。
うどんげと合流。「すげー！えーりんの薬でケガが治った！」
そしてウサギを2匹、おいしくいただきました！



博麗神社に戻ったら「凍った本」と
困った魔理沙ちゃん！「パチュリーに本返してきて」
だってさ！えーりんは何か怪しい薬作ってる！？
ってことで、魔理沙のおつかい任された名無し
パチュリーに本返しに紅魔館へ……



そこに待ち受けていたのは紅魔館の主、レミリア
どうやら霊夢と主従関係を結んだ名無しに嫉妬
してるらしい。お互い意地の張り合いしてたら
いつのまにか仲良くなっちゃった。
一方、「凍った本」を受け取ったパチュリーは
曇った顔で「臨時集会を開くわ」と宣言。
(次のページに続く)





ハチユリの提案で紅魔館にて集会が開かれる。「最近起こっている異変の原因は何か？」それぞれが意見を述べるもやはり焦点はチルノと八雲紫に絞られる。肝心の紫が不在であることで紫が異変の首謀者ではとの疑いがかかるも

そこへ颯爽登場した魔理沙（アリスの人形）の名推理により紫の疑惑は噴れるも、この中に犯人がいる可能性が高いことを指摘され、議会は早々解散。名無しは、魔理沙ならばチルノの情報を知っている



かもしれないと思い魔女の森へと向かうがそこでは魔理沙とハチユリ&アリスによる修羅場が展開



されていたのだった。板挟みの魔理沙は偶然居合わせた名無しに助けを求め、彼氏役を押し付ける、

しかし、そう簡単にはハチユリもアリスも納得せず魔理沙は仕方なく名無しに理性の飛ぶキノコを食わせる。あとはいつもの名無しクオリティでH展開。



その結果、名無しはパチェマリの怒りを買って弾幕総攻撃を喰らい絶命かと思われたが何故か名無しは地下深く地霊殿間欠泉まで落ちてしまう。そして古明地さとりのペットである火焰猫燐&霊鳥路空によって拾われるが、二人の性処理オモチャにされてしまいカラカラにされる。その間に間欠泉の温度が上昇、さとりが不審に思い駆けつけ名無し救出。



そして地霊殿に招かれた名無し。どうやら生きてそのまま地霊殿へ落ちた理由は、かつて妖夢とアルバイト中に取り憑いた悪霊のしわざだったようだ。それを見ぬいた地霊殿の主、古明地さとりは除霊を手伝う。しかしその悪霊は想像以上に強力な悪鬼だったため、さとりも精神攻撃を受け大苦戦。だが、さとりの全てを包み込む博愛によって悪霊の魂も浄化され、名無しは無事地上へ。



一方、地霊殿の一室では古明地こいしとフランドールの魔の手がチルノに迫っていた。博麗神社へ戻った名無しは、倒れている霊夢を発見。どうやら八雲紫が倒れてしまったらしい。暗雲たちこめる中、名無しは紫の元へ向かう…それでは続きをどうぞ～。



「……ごめんなさい……」



「貴方がした事は許される事じゃないわ」

「……でも情状酌量の余地はある」



「チルノを連れ戻したら最初に貴方の所へ連れて行くわ」



「この事は二人だけの秘密にしてあげる……その代わり」



「……うん」

「今思えばあれが全ての元凶だったのかもしれない」



「そこでちゃんとあの子に謝りなさい
いいわね？」

それでも私は
彼の事を諦めたく
無かった

朗報よ

アナタに相應しい
居場所を
見つけたわ

本当ですか!?

外界に迷い込んだ
ある妖精を助けてあげて
欲しいの

その子の支えに
なっただけ

で…
そのために

アナタには
ココでの記憶を
全て忘れて
もらおうわ

そんな…!

嫌ですよ!
俺はまだ何も紫さんに
恩返し出来てないし…





一緒にいてくれた…
それだけで十分よ
…それに

境界に落ちた人間を
実体化させ続けるのは
私にも負担が
大きいの

大丈夫…上手くいく…
チルノは彼を必要とし
彼もチルノを想うように
なる…

勿論チルノも長くは
保たないだろう…
その時は二人とも
幻想郷に連れ戻す…
彼に悟られぬよう…

後は私以外の誰かと
主従関係を結ばせる
勿論、彼にそうさせる
動機が必要になる…

だから彼に
こう提案する

「チルノを助ける
代わりに博麗神社で
働きなさい」と…

そうね…

次会う時は
「人間」って
呼んであげるわ

名無



界に迷い込んだ思念体は興味の対象だった。勿論、今までも数多の影はあった。それらは意志を持たず、ただ漂い、やがては忘れら
いった。：。そう、そんなによくある影の一つだと思っていた。でも、違った。アナタは外界でただ漠然と生きていたわけじゃない。
確な意志を持って、誰かのために生きようとしていた。そういう気高い魂には時として自我が宿る。たとえ肉体を失い、概念すらも
味な存在になっても、その奥にある熱が潰れる事はない。そんな影の中に眠る種を私は見出した。私はその影を「アナタ」と
界には私以外に自我を持った対象は存在しない。だから本来二人称も三人称も必要が無かった。私が境界で
アナタ」と呼べば、それはアナタ以外には居ないのだ。いつのまにか十年以上の月日が流れ、アナタは次第に自我を取り戻して
我だけじゃない。肉体すらも取り戻しつつあった。私はそれが嬉しかった。だがそれと同時に問題も起きていた。私の能力に陰りが
じめていたのだ。境界のキャパシティを維持出来ない状態に陥りつつあった。それでもアナタという情報は日増しに増
のまま、アナタも保たなくなってしまう。そう私は危惧した。可なり私は焦っていた。私にもしもの事が
影響を及ぼして
ことを諦
来な

更やめること
度も互いを求
は強くな
決意した。何
ナタを救い、
ようどその頃
ルノが人間界
を必要とする
間界では弱っ
に角、誰かと
けれど、あの
れなら、あと
が前う。霊夢
後ま安心して
私にも能力回
念出来る。そ
のための布石
を作り上げる
私には全ても
ないはず

私には全ても
ないはず

すみません…
やっと着きました

いえいえ上出来です
ココは本来人間には
辿りつけませんから

紫さんは
どうしますか？

巫女さんの頼みで
物理的な道程を
確保しておきました

今は少し落ち着いてますが
我ら式神も姿を保つのが
精一杯ですよ…
橙に至っては
喋る事も出来ず…

巫女さんの提案に
乗ったのも
止むを得ずという
感じで…

本当は紫さんに
チルノの事聞きたいけど
今はそれどころじゃ
無いんだろなあ…

紫様
名無し様が
お見えです

ご苦労様…

藍
下がっていいわよ
休んでなさい





ねえ人間
約束できる？

今から私が何をしても
驚かないって

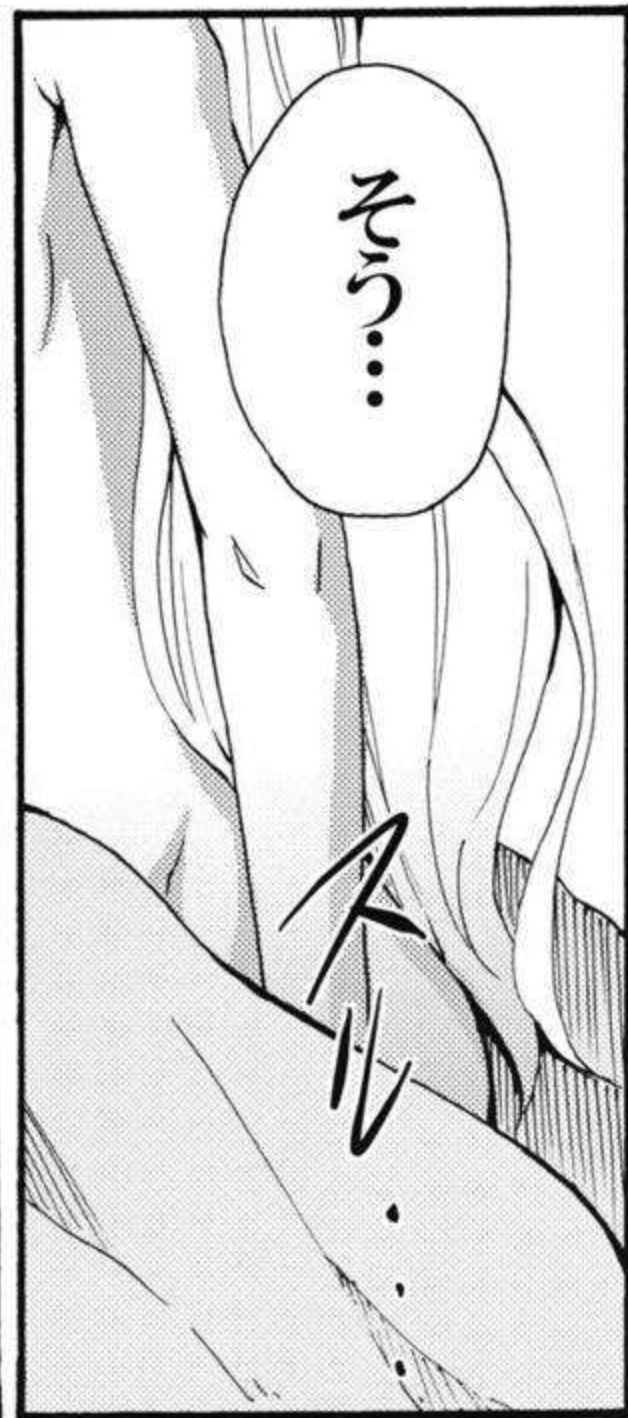


そう…
あの子がそんな事を…

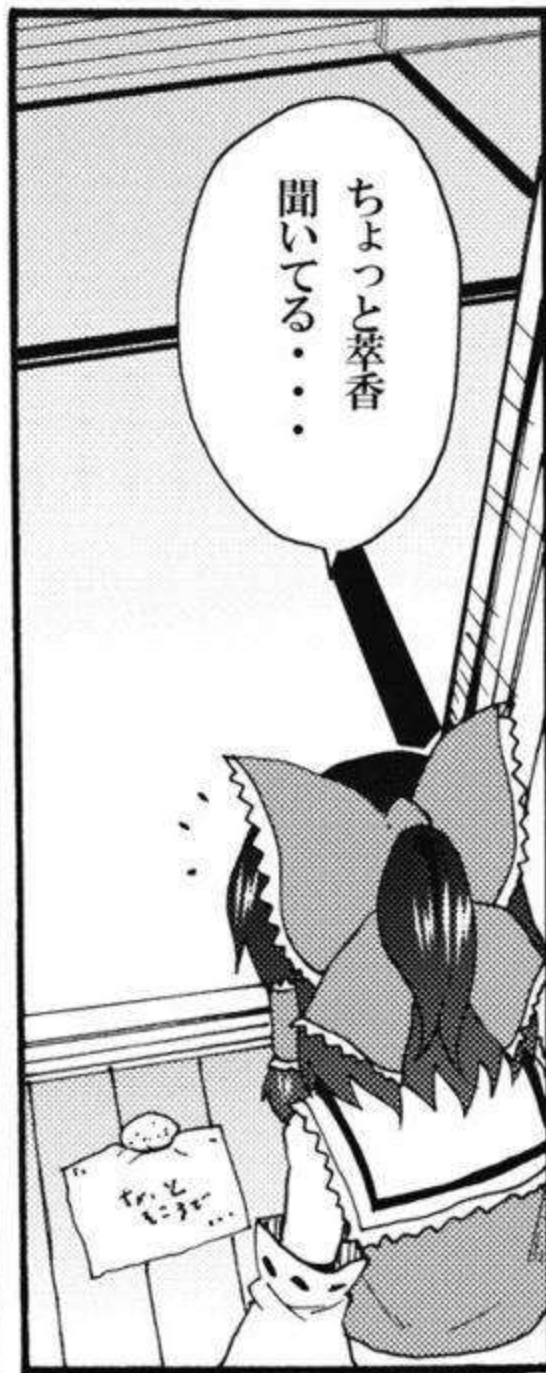
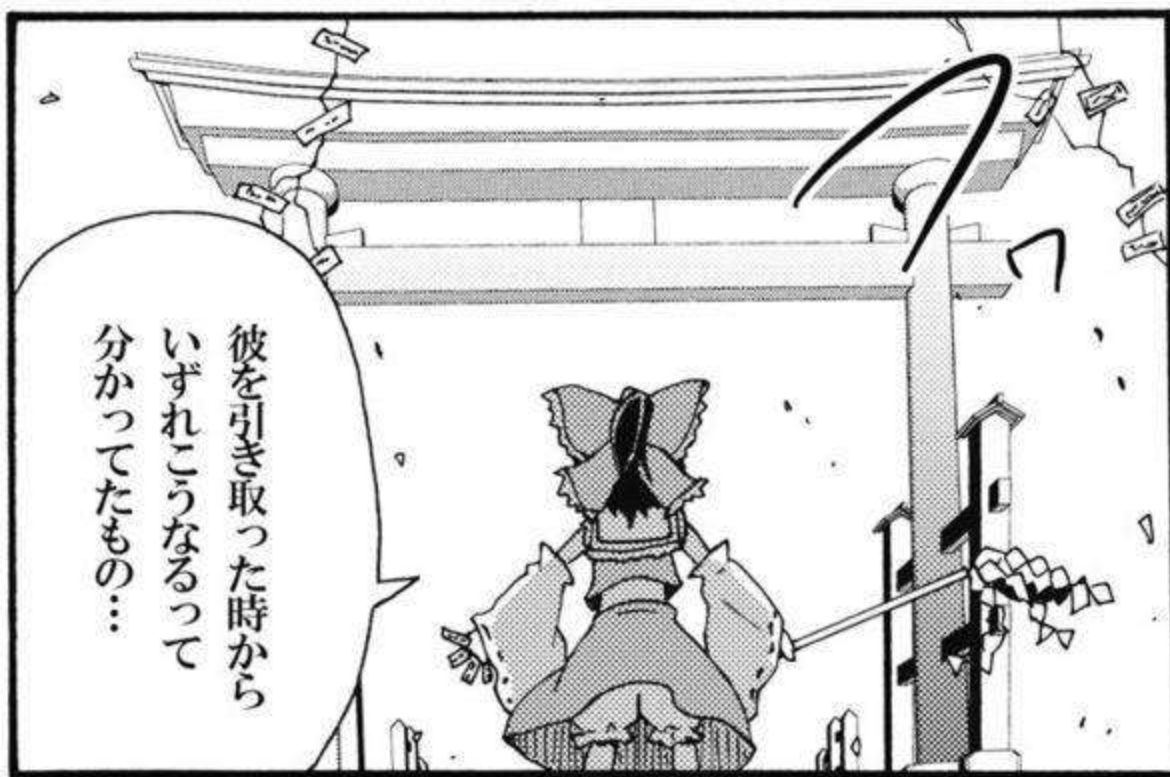


紫さんが突然背後に
現れた『あの時』を
思えば…

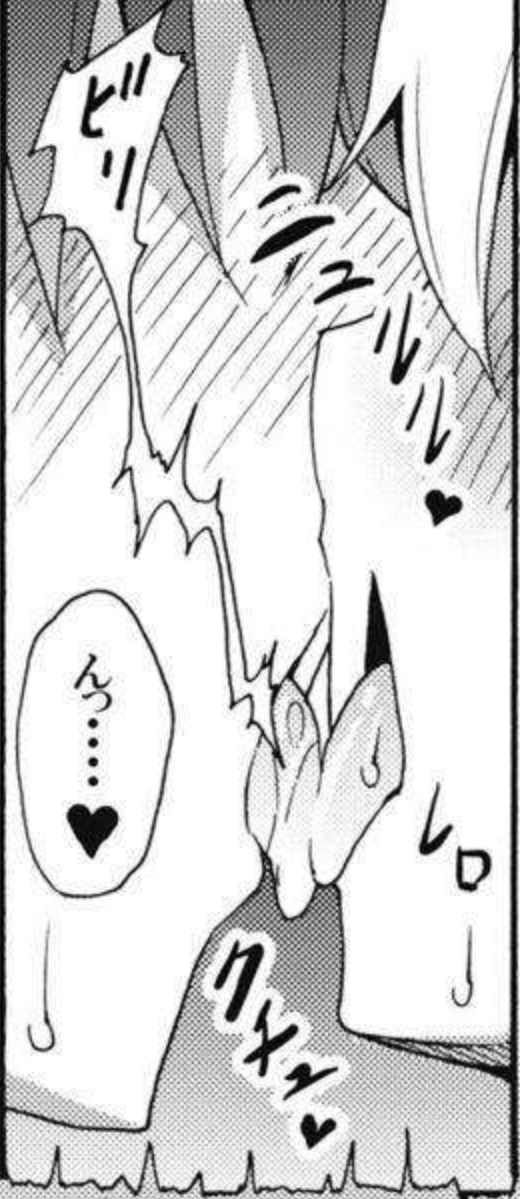
幻想郷に来てから
オカルト耐性
付きましたし



そう…







この薬をどうぞ

能力限界を
気にしていること
聞きまして...

蓬莱の薬ですから
副作用はありません

「どう...じゃあ有難く
受け取っておくわ」

紫: そんなモノに頼らなくても
アンタなら時間かあれば...

「時間か無い?
何を隠してるのよ紫?
まさか境界の中に何か...



薬の効果はいかかでした?

「可く効いてるみたいよ
確実に以前より力が増してる」
それは残念ですね
大賢者でもある方が...

「あなた...何を言ってるの?」

結果は出たようですし
ハッキリ言いますよ...

ソレ
偽薬です...

意外と曖昧なんですわ

境界を操る能力って...



私の記憶よ…
能力値が曖昧だから
今はこんな方法でしか
見せられないの

今のは一体…？



基準とは自我であり
「自信」が能力の根源…
そこに矛盾が出来れば
私の境界にも矛盾が
起こる…

境界とは基準なの
私の作った境界は
私自身が基準…

いい？

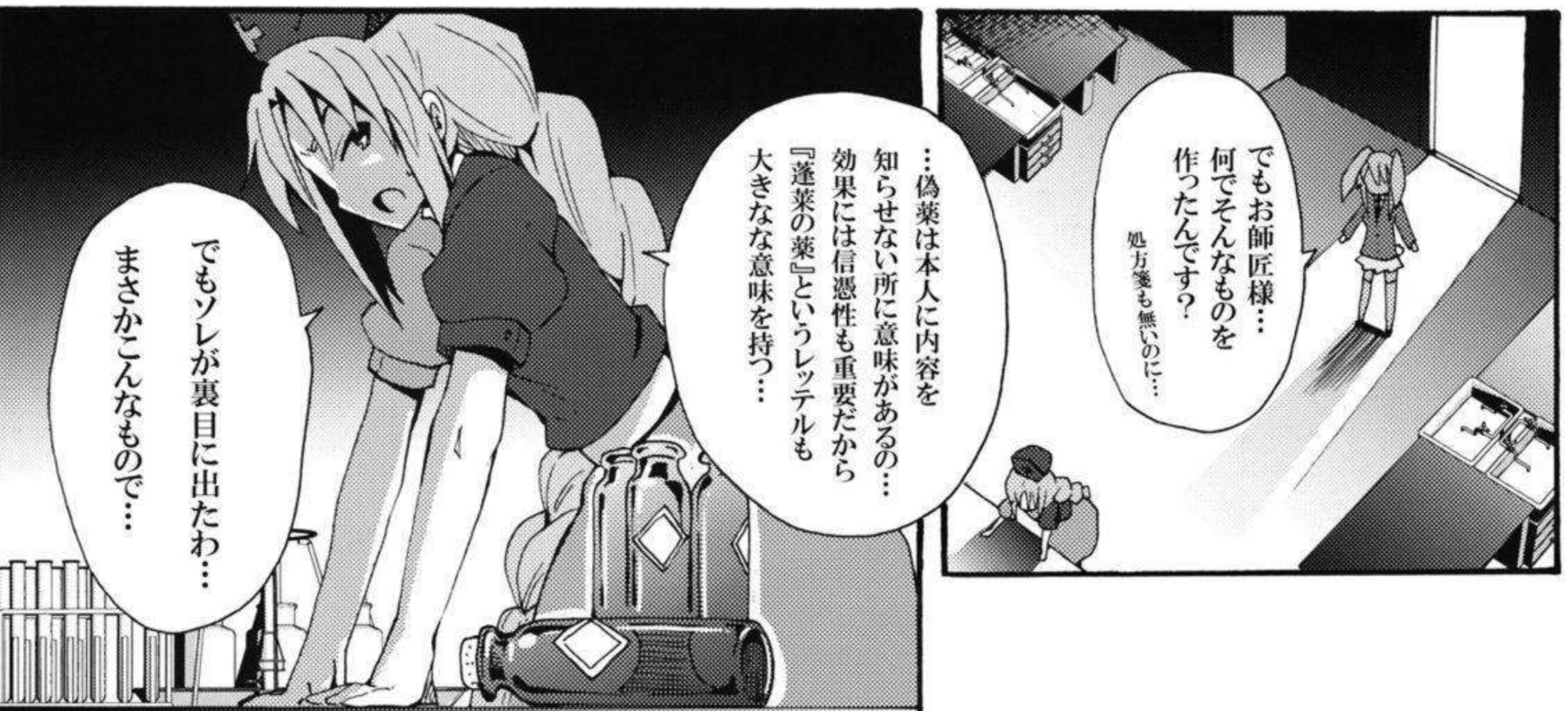


ブラシーボ
偽薬効果よ

そう…



それってつまり…



でもお師匠様…
何でそんなものを
作ったんです？
処方箋も無いのに…

…偽薬は本人に内容を
知らせない所に意味があるの…
効果には信憑性も重要だから
『蓬莱の薬』というレッテルも
大きな意味を持つ…

でもソレが裏目に出たわ…
まさかこんなもので…









はあ...はあ...

フフフ...
可愛い♪



嘸んじや
ダメですって...

ガシガシ



こっぴうのも
好きでしょ?
聖丸を吸い込んで...

んんっ...

ぐあああああ



うっ!



何だこれ...ッ
いくら何でも
気持よすぎるッ!

んっ...んっ...♡

どうしてこの人
俺の弱点をこんな
知ってるんだッ?

ふ...あ...♡

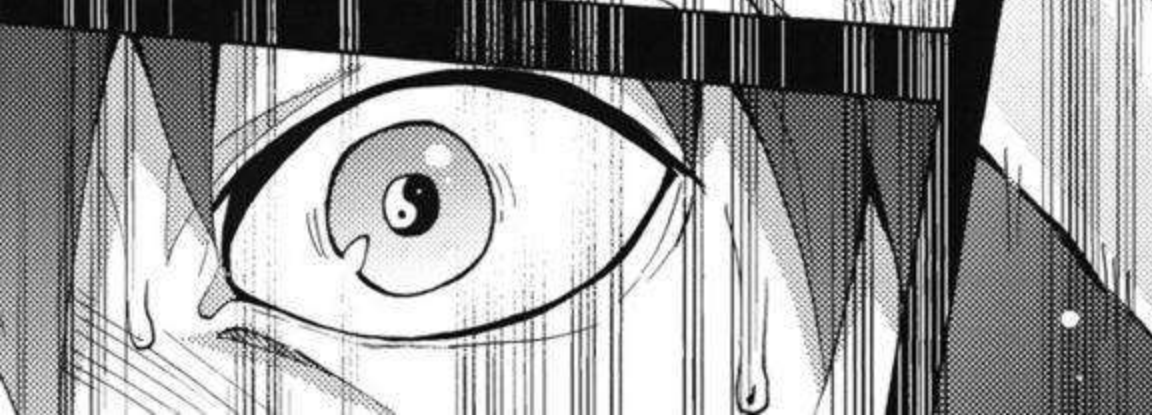


うあああああッ!

ふはぁ♡♡



はっ…あああああ……!









あう♡あああああ♡

入ってる…また…
私の膣内に♡

あなたので…♡
子宮までグイッて
押し上げられちゃう♡



やっぱりだ…
形が馴染んでる…
身体が覚えてる…

俺と繋ぎあは
こんな事を何度も…ッ

う…ん♡

ん…♡



あなたのせいなのよ…♡
これ…クセになって
止まらなくなっちゃうから♡

あなたを助けようとして
私…必死になっちゃうて
それで…♡

ひゃあ♡

でも…境界に
留められないくらい…
アナタが元気になるから♡

アナタをチルノと
くら付けて…今までの事
忘れようって…♡

ひやひや♡
ちんぷ♡
のん♡

さ…さっきまで…
平気ならもりだつたのに…
思い出されちゃって…

前の私と比べられたら
こんな姿 恥ずかしくて…
自信なくなつて…ッ!

はあ♡

ふえ？

大丈夫ですよ…
僕は今の紫さんも…

好きですから



どうせ何度も出されて
るんだからあ♡
い...い...い...♡

ふんっ♡

はんっ♡

紫さん...っ
隣内に出して
いますか？

あ♡



ねえ...♡
私...後悔しないから...
アナタを救ったと...♡

アナタが恨んだって
私は絶対...っ

んう...っ



あッ...♡
あああああはあああ

熱いの...っ
い...い...い...♡





小さいスキマが
操れる程度の能力に
回復したみたい

本調子には
程遠いけど…



良かった…
これで少しは霊夢さんも
楽になりますね

無



で…

アナタ私に
聞きたいこと
あるんじゃない？

え…？

そうだ！
チルノですチルノ！

無

今どこに居るんです？
無事なんですか！？



ぶっちやけ私にも
よく分からないわ…

え!?

私もこんな状態だし
アナタの事で手一杯
だったのよ…



せめて何か
手がかりは…？



あるわ

守矢神社

何よこれ…
あなたたち…
一体何をしたの？

私…ここまでして
なんし…

おんじょんやん。

改めれば
あげたよ♡

私たちの
可愛いペット

サイキョウちゃん！

サイキョウ！

サイキョウ！

フク？

あとがき

どうも、この本を手にとっていただきありがとうございます、キシリトヲルです。ラスト2ページがまたラフになっちゃいました…入稿ギリまでやってたのでごめんなさい…。何気に同人の新作は9カ月ぶりです。去年の冬コミで出したのは縦集編でしらからねー（汗本当、待っていただいた方々には申し訳ありません…。で！今回はようやく紫本でした！東方同人を描き始めシリーズ化してみようと思いついた時からいつか描かねばならない、いや、描きたいキャラでした。とはいっても僕がお姉さん体型のままのゆかりんを描いても需要があまり無いだろうなってのは思ってたので、仕方なくロリにしました……。仕方なくロリにしました！（迫真）別に自分の性癖に正直に描いたとかいうわけじゃ…。で、まあ内容なんですけど、今回は説明する所が多すぎて「これエロ同人として成立するか…？」とプロットの段階で頭を抱えました。でも描くべき所はしっかり描いておかないとストーリーを続ける以上避けられないし「博麗神社の霊夢さん」を描いた時点で、ロリ化して出す！って決めてましたから僕自身なんか、ここまでスゲー時間かかったな…という思いです。僕がもっとキッチリ進めてればとっくにこのシリーズ完結してたんです、はい。でもこの年月やってたお陰で色んな出会いもあってそれはそれで良かったとも思ってます。あ、話がそれました。今回はいつものように冒頭をピックアップするキャラの視点で始めました。でも、けっこう「え…？」ってなった人が多いいんじゃないかな…と。この展開にしようとは結構前から決めてたんですけど、これを順序立てて説明していくとエロが少なくなるな…と思ったので最低限ギリギリの情報量で説明してみました。でも、冒頭に説明というか、紫の視点で見る物語を持ってきた事で、後半はスムーズになったような気がします。（あくまで個人の感想です）今まで伏せておいた部分とか複線のようなものをこの本で半分は出せたので、次からは結構スッキリ見てもらえるんじゃないかなと。もしくは今回の展開を見て「えー…ないわーこんななら切るわ」という人もいる気もしますが、そこは2次創作。あくまで自分の描きたいものを貫き通します。どうか最後まで、僕なりの東方2次創作を楽しんでもらえたらなって思います。次回は夏コミで諏訪子本を検討してます。ストーリー面白くねえ…って人も、せめてエロで満足してもらえるように頑張ります。ではでは、ンシ

おまけ

なんだかんだで載せ忘れていた地霊殿組のキャララフです。なぜ毎回キャララフを描くのかというといちいち資料見ながら描くのも嫌なので、記憶するためにラフを描いてます。漢字の書き取りと同じです。



原作の雰囲気とか特徴はできるだけ汲み取ろうと思っていても「あーココめんどくさい！」とか「なんか違和感あるな…」って所は勝手に解釈して、デザインを変えたりします。そのへん賛否両論ありそうですけど、それも二次創作かなと。口調もハッキリしないキャラが多いので自己解釈で補完したり兎に角一辺倒な「これが正解！」みたいなのが無いのが東方projectのキャラクターの面白さなんだろうなと思います。だから僕が描くチルノだって、キシリトルのチルノであって他の人が描けばまた全然違うチルノなんですよね。それが許される原作のユルさと、ファンの懐の広さ。あえてアニメ化せず「正解」を作らないZUNさんの潔さ。カッコイイなって思います！

「紫のいうことを聞きなさい！」
 ■発行：のうないカノジョ ■著者：キシリトラル
 ■発行日：2012年5月 ■印刷：栄光印刷様
 サイト：<http://johnny-do.com/toworu/>
 連絡先：nonai-kanojo@johnny-do.com
 mixi、pixiv、Twitter、Stickamもやっています。

おまけ

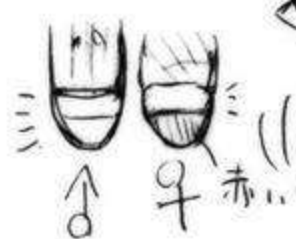
トヨタの虫コラム

ゲンジボタル

(Luciola cruciata)

大きな黒い瞳が特徴的。
 沢山の光をよく見るために球体が2つならんだような目の形です。

成虫は水しか口にしません。とっても低燃費



♂と♀では発光器が違います。♂は2節大きく光り♀は1節小さく光ります

ホタル



幼虫はカワニナという巻貝を大量に食べます。この時に蓄えた栄養があるので成虫は水しか飲まないと言われてます。

ちょうどホタルのシーズンという事で今回は代表的なゲンジボタルの紹介です。名前の由来は言うまでもなく源氏物語の源氏です。

ひとまわり小さいヘイケボタルのいうのもいます。つまり戦いに勝った源氏は強く大きい光のゲンジボタル。没落した平家は弱く小さい光のヘイケボタルです。ですが環境的にはヘイケのほうが田んぼなど汚泥に強い感じですが。ゲンジボタルの大きさは15~20mm、感触は柔く草の匂いがします。W♀のほうが体格は大きいのですが光は弱めです半分くらいです。あと雌雄比率では圧倒的に♀が少ない逆ハーレムです。ホタル狩りすると♀の少なさに驚きます。その分見つけたら嬉しい。あと、ゲンジボタルは卵~成虫までずっと光ります。そこも僕がゲンジボタルが好きなの理由でもあります。生涯発光!!ヘイケは形こそソックリですが、幼虫は光らないんです~。幼虫飼育するのならヘイケのほうが楽ですがゲンジおススメ。ただし羽化させるのはとても難しいので気をつけてください。それなりの準備が必要です。試行錯誤してヘイケを羽化させた事がありますが、あれは本当に感動します。ホタルが生育出来る環境がいかに絶妙なバランスで出来ているのか考えるキッカケにもなるかもしれません。

※18歳未満閲覧禁止

※画像の無断転載、WEB上へのアップロード禁止

捌

2012/5
のらねいかノゾヨ

